

## 交通事故に遭って思うこと

61歳 女性

「まさか自分が交通事故に遭うなんて。」と、よく言いますが、本当にそうでした。

その日私は、自転車で外出をしていました。横断歩道の信号が青になるのを確かめて自転車をこぎ始めました。

前方には10人くらいの若者が歩いていました。

その人達にぶつからないようにと思いながら、横断歩道の半分位に差し掛かると突然、右折してくる車が視界に入ってきたのです。

「あっ、車が止まらない、止まらない。」と思った瞬間、私はそのままはねられ、地面に叩きつけられました。

右側顔面を強打し、起き上がろうとしてもすぐに身動きがとれません。

意識はありましたので、「大変な事になった。」と思いました。

左手の激痛と顔面を強打した事の恐怖。救急車が来るまでの時間が、とても長く感じられました。

幸い、周りにいた方々が電話し、親切に私のそばについていて下さりました。

左手首の複雑骨折と、顔から足までの打撲。全治3か月ではありましたが、頭のCT検査では異常もなく、命の危険もなく、不自由ながらも右手で何とか生活できました。

それでも交通事故後のいろいろな手続きは、被害者にとっても面倒なことでした。

時間的には少しであっても、事故直後ということで集中した考えができません。

書類に目を通し、説明を聞き逃さないようにする作業は、やはり少し苦痛でした。

仕事をしている私にとって、職場にも大変迷惑をかけました。突然のことですので、その対応はやはり大変だったと理解します。

リハビリの毎日を6か月続けてきましたが、やはり、元のような手の動きは戻りません。交通事故の現場に遭遇すると手首が痛んできます。

事故というのは、外傷だけでなく、心的ストレスも大いにあるのだと実感しました。

ちょっとした気配りで防げる事故はたくさんあると思います。

運転する人だけではなく、歩行者も左右をしっかりと確認しなければと思いました。

やはり交通事故は、加害者、被害者、共に悲惨です。

お互いに細心の注意を払わなければいけません。

愛する家族に悲しい思いをさせないためにも。